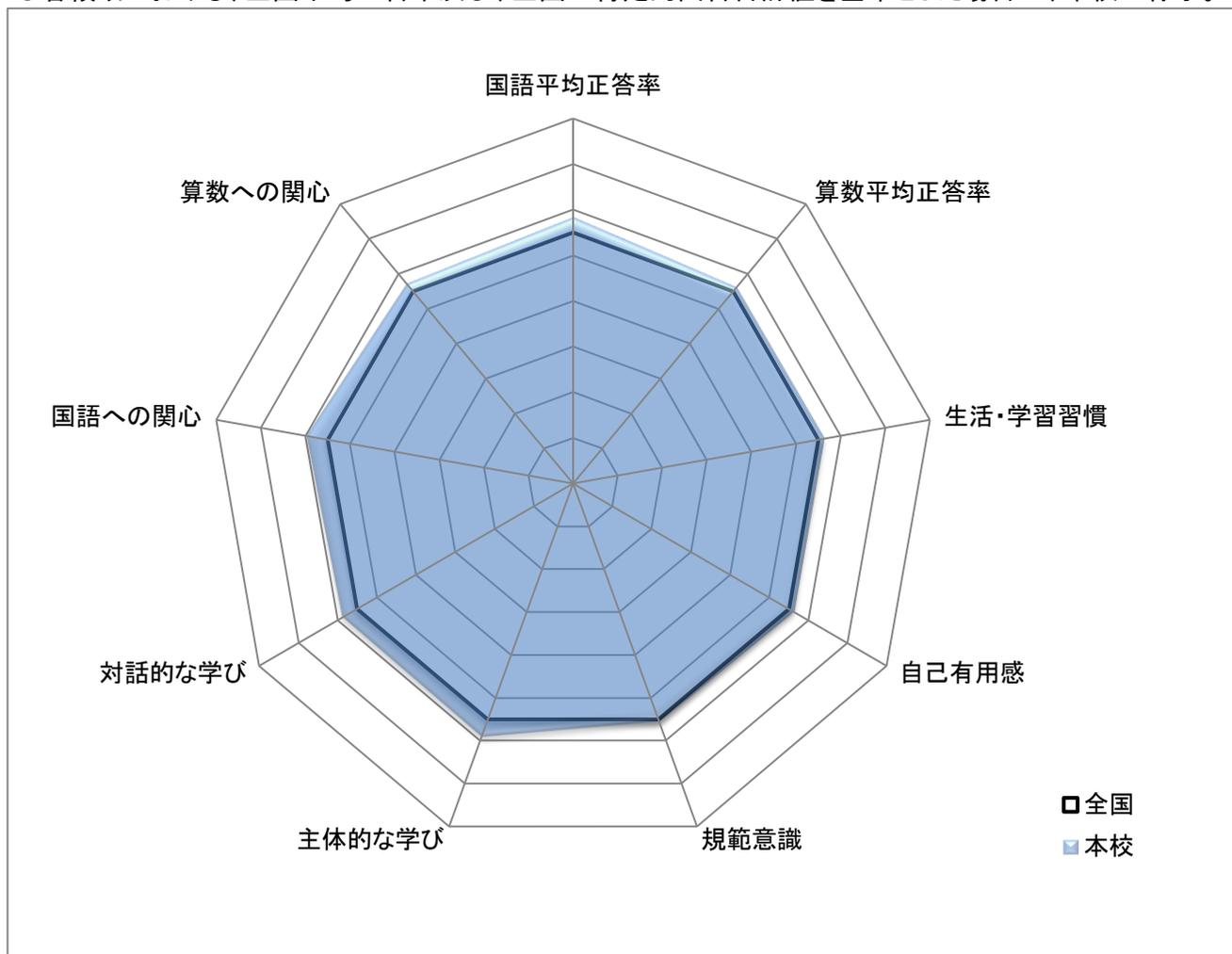


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・国語の平均正答率は、全国平均や都平均を上回った。同音異義語のある熟語を書く問題では都平均を上回ったものの正答率が40%に満たず、課題である。読むことについては、全国平均・都平均から0.9～1.9ポイント下回った。
 ・算数の平均正答率は、都平均を2ポイント下回ったが、全国平均を1.4ポイント上回った。「図形」の領域は全国平均を上回ったが、他の領域は全国平均に近い結果となっている。数学的な考え方を記述式で答える問題についての正答率が全国や都の平均を下回っている。

《授業改善のポイント》

＜国語について＞ 文章を記述することへの抵抗感をなくすためには、課題となる文や本を読んで、それについて書く学習を増やすことが大切である。言語事項については、ミニテストなどを活用して定着を図ると同時に辞書を活用して同音異義語の学習に取り組むなど、学習の幅を広げていく。
 ＜算数について＞ 記述式の問題の正答率が低かったことから、数学的な考え方を身に付けるために、日常生活場面と関連付けさせたり、自分の考えをノートに書くことや考えた理由を話し合わせたりするなどして、日ごろから数学的に考える機会を設ける。また、東京ベーシックドリルなどを活用して全学年までに習った計算方法を繰り返し練習するようにする。

《チャートの特徴》

・このチャート図は、「全国学力・学習状況調査」及び「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を表したものである。黒線は全国平均を表し、青線は本校の平均を表している。
 ・国語・算数ともに平均正答率は全国平均を上回っている。学習への関心や対話的・主体的な学びへの意識も高く、全国平均を上回っている。
 ・「生活・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」は全国平均並みであり、概ね良い習慣が身につについて、落ち着いて学習に取り組むことができていると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

・「五葛西ルール」の中に家庭学習の時間の目安を示し、家庭への啓発を行う。
 ・「家庭ルール」の振り返りを学期ごとに行い、生活習慣の改善を家庭に願います。
 ・学年便りや学校HPを通して学校の状況を伝え、学校生活における児童の理解を図る。